

ンターホールで、「日本の侵略の責任を明らかにする」が開催され、二百五十名が結集した。集会実行委は、日韓連帯運動を担う広範な団体で結成された。

「前世紀の反侵略・反封建時代、日帝からの解放時代と分断を経て今日、民族再統一時代という第三の民族史的転換期にわれはある。八八年六・一〇民衆抗争を機に脱冷戦下、自主・民主・統一時代を迎える現在のいかなる妨害も許されない。反歴史的韓日条約の全面破棄と南北共同代表を一方とする完全な新条約、朝鮮侵略への法的賠償などが必要である」(美穂求・韓国東國大教授、「反歴の朝講演要旨」)、「日韓条約第一条の『併合条約・協定はもはや無

い』」が開催され、二百五十名が結集した。集会実行委は、日韓連帯運動を担う広範な団体で結成された。

「田満締結」発言とは正反対の集いが開催され、二百五十名が結集した。集会実行委は、日韓連帯運動を担う広範な団体で結成された。

七月一日、東京の目黒区民セントラルホールで、「日本の侵略の責任を明らかにする」が開催され、二百五十名が結集した。集会実行委は、日韓連帯運動を担う広範な団体で結成された。

日本侵略の責任を明らかにする

7・1 京 日韓民衆の集い

日本の侵略の責任を明らかにする

効の日本側理解は、韓国では

すでに無効

すなわち渡辺の

の集い

が開催され、二百五十名が結集した。集会実行委は、日韓連帯運動を担う広範な団体で結成された。

「田満締結」発言とは正反対の集いが開催され、二百五十名が結集した。集会実行委は、日韓連帯運動を担う広範な団体で結成された。

争主流・形態、理念、闘争対象やスローガン、思想的根柢など

の変遷が示される。

国会決議、六・四渡辺発言、

青年による構成劇、各団体発言

と続き、集会場は熱気に包まれ

勢を擧つこの日の集会では、以

た。

7・23 「慰靈巡幸」を許すな!

東京都慰靈堂に抗議デモ

「慰靈巡幸」を許さない。年国会決議」とそれをめぐるマスコミ世論の欺瞞性を徹底的に批判するとともに、すでに、力

して終了した。

たとともに言及しない「戦後五十

年国会決議」とそれをめぐるマ

スコミ世論の欺瞞性を徹底的に

弾劾するとともに、すでに、力

とボジアPKOにおける死者が

「顯彰」されているよう新たに「英靈」への祀り上げを策す

せつて、PKO派兵を要とする

霸權国家下の象徴天皇制を確固

に画策している。ともに天皇

が画策している。ともに天皇

国際反革命体制論の検討

◆3◆

動 摆 期

国際反革命体制の動揆期は、一九七〇年代初頭一九八〇年代末の約十六年間である。この動揆期は、七年金・ドル交換停止一七三年主要通貨の変動相場制移行と、七三年石油ショックによって幕が開けられた。前者は、米帝の経済的地位の相対的低下が顕在化したものであり、同時に、膨張する多国籍企業の（通貨投機）行動に対し国家が規定力を弱めている現実を明らかにしたものだった。後者は、耐久消費財生産部門を推進軸に一般化した帝国主義諸国社会における大量生産・大量消費が、石油資源の有限性を武器とした「第三世界」搾取階級の利潤再分配要求と衝突して生じた、世界的過剰生産の顕在化であった。

この時期には、六〇年代の米独占資本に続いて、七〇年代に西欧独占資本が、八〇年代には日本の独占資本が、帝国主義諸国双方の国境とかつての勢力圏を越えて相互浸透した。このような帝国主義諸国独占資本の多国籍展開の普遍化は、情報・通信ネットワークと航空運輸の発達を促し、その技術的基礎の上に市場開放・規制緩和・民営化・自由競争の促進を条件として「第三世界」の労働者が大規模に流動する時代が開かれ、地球規模で諸民族の労働者に対する重層的な搾取と差別の体系が発達し、これまた地球規模で自然生命の再生産構造が危機に陥り、そうした犠牲の上に帝国主義諸国において製造業の空洞化・消費社会化という寄生的「豊かさ」が飛躍的に深化した。このことは、「第三世界」諸

落に手をこまねいでいたわけではない。ベトナム侵略戦敗北直後には、東西デタント・米中は、この双子の赤字により八〇年代半ばに世界最大の債務国となり世界的規模での重層的な産業構造のあれこれの層に分化していくことを意味していた。それを象徴したのが重化学工業部門を引き受け資本主義工業国に変貌した韓国・台湾・香港・シンガポール（アジアNIES）などの中進国」の形成だった。

こうした中で、国際反革命体制を構成する帝国主義諸国家は、自國の労働者上層の政治統合を強めることに成功しつつも、国

波に洗われて「国民」的統合の危機の時代を迎えた。資本の今日の発展がもたらす産業空洞化によつて資本が資金奴隸として生

きる道を保障できなくなつたま

すます多くの労働者に対し、ブルジョア階級支配を維持する代價としてのわざかな生活保障をも削減する末期症状を顕し、さらには地球規模の自然人間生

命の再生産構造の危機に対する

対処能力の限界を露呈した。そ

れとともに、「外国人」労働者や失業者、市民のそれぞれのたかいが広がつていった。また、米帝の相対的地位の低下にともなう帝国主義世界の共同意志の形成が困難化したこと、帝国主義の独占資本が多国籍化し、多くの場合相対立する「第三世界」諸国搾取階級の双方と利害をともにしていることによって「民族紛争」に対し無力化しつつあるなど、国際反革命体制の全般的衰弱した。

この時期の米帝は、自己の没

落への手をこまねいていたわけ

ではない。ベトナム侵略戦敗北直後には、東西デタント・米中

の安定化に向けた息継ぎが必要としたが、七五年に仏帝の提唱したサミットを始動させ、OPECなど「第三世界」諸国（搾取階級）の経済的押さえ込みとソシテーとの対決において欧日帝

の外交樹立により世界一国内政治

の安定期に向けた息継ぎが必要としたが、七五年に仏帝の提唱

したサミットを始動させ、OPECなど「第三世界」諸国（搾取階級）の経済的押さえ込みとソシテーとの対決において欧日帝

の外交樹立により世界一国内政治